学校教育目標 ふるさとを愛し、夢の実現に向けて主体的に行動する児童の育成 地域の「ひと・もの・こと」を生かした体験・交流活動を充実させるとともに、知・徳・体の調和のとれた児童を育成することにより、保護者・地域の願いに応える。 使命·存在意義 経営理念 中心価値·行動規範 ○教育的変解をもち、授業改善や得事力向上に劣めることで児童に確かなず力をつける手状をめざす。○別地学学区区内の校種間の連携(保小連携、小中一貫教育)を推進し、取組の成果を広(情報発信する学校をめざす。○危機管理を徹底し、すべての児童・根職員にとって安心・安全な学校をめざす。

| T     |   |  |        | 評価計画   |   |                                   |  | É  | 自己評価  |                              |             |  |  | 学校関係者評価 |  |  |
|-------|---|--|--------|--|---|-----------------------------------|--|--|---|------------------------------|-------------|--|--|---------|--|--|
| ф     | 期経営目標   | 短期経営目標   | 担当     | 評価指標   | 具体的な取組・方策   | 目標値                               | 達成値  | 7月<br>達成<br>度                                | 評 達成 値  | 達成 度                         | 評価          | 評価結果の分析(成果・課題)   | 今後の改善策   | 適正      | コペント   |  |
| 雌かな学り | 基礎学とでした。<br>を定盤分もできない。<br>を記し、判別のる。<br>が表を図る。       | 主体的に学習に取り組<br>む態度を育成する   | 熊谷・田中  | ・基礎事項定着のためのドリル<br>学習(タブレットドリルを含む)を<br>計画的に継続する。<br>機態的な教材研究を通して、<br>単元で身に付ける数学的な見<br>方、考え方を明らかにする。そ<br>の上での授業実践を重ねる。 | ・算数の学習が楽しいと80%以上<br>の児童が感じている。また算数の<br>時間に「解いてみたい、考えてみた<br>い」と80%以上の児童が感じている。<br>、中間期:アンケート、最終:三<br>次市学力到速度検査<br>・「国語科・算数科の単元未て入い、<br>能の領域が80点以上、思考力、判<br>能の領域が80点以上、思考力、判<br>ある。 | 80%<br>80%<br>80点点<br>70点<br>80点点 | アケト<br>82%<br>81%<br>第5点点  | 103%<br>101%<br>106%<br>109%<br>102%<br>129% | アケト 85%<br>85%<br>数点点<br>第84点<br>884点<br>884点             | 106%<br>106%<br>105%<br>109% | A A A A A   | ・2字期は3回の授業研究(2・5・6年)が行われた、授業参製、そして事徒研修を通して、数がかな見か、考え方について金属県で考えた。また、講師の方の日報・掲載を選して、各学年でのなどまた。考えまた、講師の方の日報・掲載を選して、各学年でのなどが、今年からの場合よど、各学年でのなどは、下り、中では、今年では、今年では、中では、大変学の学者で、今日では、大変学の学者で、今日では、大変学生の学者で、大変が表していて、またまだ研究が必要だと課題を感じている。学年に、中では、今日では、日本の主意といる。学年に、中では、日本の主意といる。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、中では、日本の主意と対している。学年に、日本の主意と対している。学年に、日本の主意と対している。学年に、日本の主意と思いて、日本の主意と対している。学年に、日本の主意と対している。「日本の主意と対している。」といる。「日本の主意と学表がいる。」といる。「日本の主意と学表がいる。」といる。「日本の主意とない、日本の主意といる。「日本の主意の書から、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の書が、日本の主意の表が、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の主意のまり、日本の | ・3字架には按葉将変か2回(3・4年)が行われる。準後研修が、金融員の学び・奨度改善につながるものとなるように引き機能を構作でして、 ・今年度の成果・課題について職員アンケートを実施し、1年間の研修を振りる時間を設け ・引き榜と、ドルルタイムを効果的に関い、下状期の変分間を基礎問題を解く時間に充てる。 ・引き榜と、ドルルタイムを効果的に関い、下状期の変分間を基礎問題を解く時間に充てる。 ・引き校と、ドルルタイムを効果が、実施、下れたが、実施が高生がまして動きた。となった。一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、   | Α       | ・日標、具体的な歌組・方策、評価指揮が職員間で共有され、組織的な歌組になっていると思くました。また、実生・アナー・一件基本でも、「重要の伊東が多毛(なった」、計画を全し、「ありの原来が多しくなった」、計画をといると思いました。 「他の原来だら、「ままの伊東が多しくなった」、計画をといると思いました。 大きの原来だと思います。 「必要を自分の考えや分からないところ。また。またらにアドバイスやヒントが出せる環境を出土を力を開発が高したから、自分が実験するだけではなく、後男するもついていて考えを表現できていたと思う。 「東京が最上くないという理論でも考り添ってだらっている。 表え合ったり間をしていている。 使果が多比くないという思慮にもあり添ってだらっている。 表え合ったり間をしていている。 「東京を中心に計画的に父母が母子を実施した。」は他の子とないと思うというというというというというというというというというというというというという   |  |
|       |   | 自分の考えや思いを、適切な言葉を用いて表現させる。(表現・判断)                                 | 河野・大槻  |  | 算数科において「算数のことば」を<br>使って説明や考えを表現させてい<br>く。それぞれの表現を児童平均<br>70%以上使えるようにする。   | 70%                               | 13%<br>50%   |  | D 100%  | i 142%<br>i 142%             | A           | ・単元で用いる算数のことばを大きく拡大したものを教室に掲示し、算数の<br>ことはを譲渡できる環境を作った結果、使えた算数のことばが増え、自分<br>の考えを算数のことはを用いて表現することで、考えを簡潔・削職・的確に<br>伝えることができた。<br>・変数科の単元末だけでなく、1時間ずつの授業においても、本時で学んだ<br>こと(解決するときにどこに着目したのか、どのような考え方を働かせたの<br>か)について、まとめることができた。  | ・算数のことばに関して、引き続き算数のことばを大きく拡大したものを教室に掲示して、意識して活用できる環境を整える。<br>・実数科の提案において、本時で学んだことの解決するときにどこに着目したのか、どのような考え方を動かせたのかりについて、まとめるだけでなく、まとめたことを共有する時間を設けられるようにする。  | А       | 児童の原籍のある場で無限にお、それぞれの学年での「付ける力」を明確にされた取組<br>は事情には必要しました。<br>・改善策でも話されましたが、「暴勢のことはを使って短明や考えを表現する」という評価指<br>雅を具体化し、数略と違められばは、金が 原理 ままらかれる 足切 生す。<br>・単元で用いる言葉で児童即上が話し合いや短例ができていた。安心して使い、関ぐ関係<br>ができていると思うしているでは、このでは異ながらいました。<br>・実養のことばは各学年でどのようなものか具体的に知りたい。<br>・実養のことばは各学年でどのようなものか具体的に知りたい。<br>・実養のことばは各学年でどのようなものか具体的に知りたい。<br>・実養者に大型を力しているをが、こので、大学もら北里がしつかり考えることができる特集の<br>原型できた。「実施のことは「後やことが関係が考える複数とすい、それぞれの異態と児童<br>平均70%以上使えるようにする。」という指揮になっているが、規率がより明確になるとい<br>いと思う。   |  |
| 豊かな心  | 共感しあい、<br>大感しあい、<br>大き体い<br>はいのにきる成<br>での育成<br>での育成 | 本校児童に育成したい<br>資質・能力である「共感<br>力」「主体性」を意識し、<br>あめようとする児童を育<br>成する。 | 佐々木・松浦 | りシートは教室に掲示する。児   | ・各学年共通の振り返りシートを活用する。そうじ、接渉、関(姿勢を学期)に1回自己評価させ肯定的評価の児童を80%以上にする。  | 80%                               | 掃80%<br>80%<br>79%<br>き<br>89%   | 100%<br>9996<br>11196                        | 掃除<br>94%<br>A 挨拶<br>79%<br>A 別き<br>方<br>90%              | 99%                          | A<br>B<br>A | ・掃除については、全校で6年生の掃除動画を見ることで掃除の仕方を理解したと、教職員で指除の仕方を再確認し、統一した掃除指案を進めることができたことで私話をしない。  | 示し、気もちの良い挨拶を意識付けていく。<br>・・聞く姿勢については、行事の時や日々の活動の中で、話を聞ける環境を   | А       | ・食でも質問しましたが、評価者を増やす「機費・保護者・地域の方々等」ことで、検証の精度が上がり、影響を具体的になると思います。 地域の内容はこよりは素が、未年度は結算したのではいがでしょうか。保護者・地域の方々の形と見、情報へ返ことができた。 おおいまりがでしょうか。保護者・地域の方々の形を見、情報へ返ことができた。 おおいまり 一般を表しませる はいました はいまり 一般を表しませる はいまり 一般を表しませる はいまり 一般を表しませる はいまり 一般を表しませる はいまり 一般の はいまり にいまり 一般の はいまり にいまり 一般の はいまり にいまり 一般の はいまり においまり におり においまり に |  |
| 健児    |   | 自ら進んで体力を向上し<br>ようとする児童を育成す<br>る。                                 | 米沢・金子  | ・体育科の帯時間を活用した運動(セット運動等)、業間体育(3<br>分間ランニング)を通して体力の向上に取り組む。<br>・新体力テストの結果をもとに、目的・課題を識をもたせ、日々の体力向上に取り組む。                | ・新体力テスト(年2回)の記録にお<br>いて、前回の総合点数を上回った<br>児童の割合を80%以上にする。   | 80%                               | 83%  | 104%   | 握力<br>68%<br>上体<br>シャト<br>シャト<br>ルン<br>64%                | 87<br>87                     | ВВВ         | 握力、上体起こし、20mシャトルランについて、11~12月にかけて測定した。前回の記録と比べて結果が上回った児恵は、超い3名(68%)、上体 た。前回の記録と比べて結果が上回った児恵は、超い3名(68%)、たなまに14名(76%)、20mシャトルラン43名(64%)だった。数値が変かっていない現意を含めると58名(92%)、54名(68%)、54名(67%)となる。低等のほとんどの児童が、全頃目で数値が上がっていた。20mシャルランは特に伸びが見られず、数値が下がっている児童も多くいた。再測定の時が寒さが厳しくなってからだったので、影響しているかもしれないと考える。 (4有委員会を通して、外遊びをするよう放送で呼びかけたり、全校で遊ぶかす良い機会と変けたりした。全校で遊ぶ取組は、児童全員が楽しみなが6体を動かす良い機会にあっていた。。 11月から12月にかけて、3週間ほど体カつくり週間とし、家庭で上体起こし、据りに取り組またよう呼びかけた。また。学校では3分間ランニングに取り組また。3分間ランニングに取り組また。3分間ランニングに取り組まれる。3分間ランニングでは目標値を設定し、達成できた児童には表彰は本を記するとからなとからないたができた児童には表彰は本を記するとからなといまからないためいまた。  | 3学期4株カウベリ月間を設け、援力、上体起こしについて取り組むよう呼びかける。数値の変化を見らたか。2月中に再度登録をとる。<br>・体育委員会を通したが遊び励行の放送や、全校遊びの取組を継続する。<br>・2月になわた比検定を実施する。3学期始めから周知し、しっかり練習に取り組むにとができるようにする。<br>(本体力で少月間等の取組について、記録を取った項目については成果や<br>課題をまとめ、来年度へつなげる。   | Α       | ・細熱は力なリ上いう言葉がありますが、「毎カ向上はまさに「種様」だと思います。見<br>語に自分の目標をもたせる等されながら、見重の意欲を持続させた限制は、素得らしいと<br>思いました。<br>・自分でエントロールとながら身体としかい動か、悪しい様力が以つのなけではしい。<br>・「一人しとりの体力を把握され「体を動かすことが悪しい、の故良い」「みんなでするドラ<br>ボールが楽し、またやけたいとした思いを大切にてにはい、本物と出ラチャンスが<br>あれば子ともたらの意欲につながります。<br>・子とものな力向につない。<br>・子とものな力向について、委員会活動を利用したり、体力つくり週間の設定等。工夫さ<br>れて扱い組んでおらる。9年間で身につける責責・能力とともに、学区全体で取り組めたら<br>よい。   |  |
| 信頼される | 頼され愛さ<br>る学校を<br>くる                                 | 保護者の学校に対する<br>満足度の向上を図る。   | 明見・宇山  | ・各部たよりHP等を通して学校<br>の様子を情報発信する。<br>像・小・中で連携し、教育活動<br>の質の向上を関し、<br>・子級通信の交流をする。  | ・保護者アンケート(年2回)で学校<br>への満足度を90%以上にする。<br>・各種とより、HP更新を月1回以上<br>行う。<br>別地保育所・青河小学校・川地中<br>学校との連携を学期に1回以上行う。  | 85%                               | アケト<br>70%<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>9<br>100<br>100 | 82%<br>117<br>%<br>117<br>96                 | アン<br>ケト<br>70%り<br>便<br>り<br>100<br>A<br>連携り<br>100<br>% | 117<br>%                     | B<br>A<br>A | 2学期来延継者アンケートでは、月に引き終意・10項目の7週目において908以上の育定的回名が上だいた。万、卯里は進んで誘着をしている。このいては、4449(7月5349)であった。家庭で児童の活響する姿が見られないというこでしまえられるが、接着の評価があれている。「児童は家庭で自然の手間があけっている。」「万88 96(7月75994)、『児童は、3世代快意、快県、快便の冒留が身についる。」「中では88896(7月8898)という評価である。昨年度の909を上枕吹ると、我が千に3份の習慣がついていないと感じている保護者が多くなってきていい。」「中学級通信のいては、月1回以上更新及び発行することができた。小中・小小連携については、学区で自同技業研究を行い技業研究を通して課題の共有を図ることができた。保外連携については、2学期は5年生が集育所との支流金を計画・実していては、2学期は5年生が集育所との支流金を計画・実していては、2学期は5年生が集育所との支流金を計画・実したができた。保外連携については、2学期は5年生が集育を通して課題の共有を図ることができた。とかでも、2学期は5年生が集育がとの支流をき計画・実したがよくかかもものとなっている。通信交流を続けていくことで児童の宴音を共有できた。   | おいて十分な取組となっていない。逐み間かせ朝金も眼痕(担任)が参加し、学年<br>に接んでほしい本の逐歩側かせも行っている。市の図書館の活動通帳を学期か<br>ら始め、何人かの逐書名人が認定されたので、實状を掲示している。また。調べ学<br>宮で図書を使っ資が子響を各学年設定」実施した。このように学級で図書を使っ<br>お調べ学音を行うことも今後継続していきたい。<br>3付については保健だよりでも特集で取り上げ、家庭へ紹介した。今後も折に触れて<br>「2学期の学級通信な法を行い、児童の変容を共有した。通信を見ることで学期か<br>らの変容を確認できた。それぞれの学級経営についての良さを知り、各自が今後<br>の学級経営や紙面に生かしていく目標をもった。 | Α       | ・中間年後の時にも書きましたが、保服者アンケードに常庭経業がの項目を入れることは<br>見したして、その経典が何機者の学校への急足度につながものかまを使じ向けされて<br>にとうでしょうか。(私も自軟で検討しています。)また、中やたよりの更新・発行回数<br>転牧寺への連囲放在学師者間にしてまった。(何か、100円であった。)<br>ので、気を付けましょう。(自分が素に思っています。)。<br>また、幼児県の歳本の読み切り<br>せは、数学後の記載しまった。(金剛からと思した。保護者を参き込み毎日の習慣となるよう<br>引き免していかなくてはいけないと思う。<br>「親北見解からの最大の出した」、接升手をひとり占めたら地上が検索が本への興味<br>潜像の展を広げていると思います。(個人表もあります。)図書主を使った個ペ学事を実施さ<br>小型でもなると表すに感じてはいと思います。(個人表もあります。)図書主を使った個ペ学事を実施さ<br>かないてもなるを対すに感じてはいと思います。(個人表もあります。)図書主を使った個ペ学事を実施さ<br>なが、代表を、特別、技術ので発生がある。(日本の発生が表していている)といり、「原理は<br>なが、代表、特別、技術ので選が多日についている)といり項目が、許幸度に比べて低くなっ<br>たということなので、引き続き、保護者への発売る動を進めていくとよいだろう。学塾通信<br>の文法は、効果的な数値である。   |  |
| 学校    |   | 教職員の授業力と組織<br>力の向上を進める。  | 明見・宇山  | ・授業研究による指導力の向上を図り、年に2回の研究授業(ブック内授業を含む)を行う、・分業部会を月1回以上実施し、分学内で協力をしながら見通しをもって文章提業を行う。(責任と組織的)                          | ・教職員アンケート(年2回以上)で<br>肯定的評価している職員を80%以<br>技術を表現している職員を80%以<br>組織として機能、学校経営に参画、<br>分学の協力)   | 80%                               | 授業<br>50%<br>分掌<br>100%  | 125%   | 授業<br>B 93%<br>A 分掌<br>100%                               | 116%                         | A<br>A      | ・授業改善については、85.7%が肯定的な評価をしている。ブロック研修も行い、年間2回の授業特労をほぼ行うことができた。しかし、研修内容が授業改善に直接及<br>以しているが対象取りにくいため、各目の指導力が向し上しているのかが見えにくい<br>と言える。<br>「自分の技務分業を進んで行い、学校経営に参順している。」「分学部会は、提案<br>文書などで困った時に自分を支え協力している。」「材内研修や服務研修が、自<br>の世事に生かされている。」の異日こいでは、100%が肯定的お評価をしている。<br>しかし、「児童と向き合う時間が確保されている」は85.7%である。   | ような成果(結果)が表れていないことや研究内章としてそれぞれの内容が全体と<br>して繋がっていないことにある。学んだことを予め時間限別にせず、今後に運動でし<br>生かしていてとか授業改善にも学級経営にもなるということは理論では理解でき<br>うているが、継続することは容易ではない。3学期の今は、まずは、各種学力アストの<br>結果から分かった実態を改善する取組を行い、その学年でつけるぐき基礎的基本   | А       | ・児童が落ち着いて学習している姿を参報させていただき、投資先生を中心に組織的な取<br>植をされていることを放って窓いることができました。素精らしいです。また、児童の姿から<br>先生力の前向を必要も他感えたことのような悪態の変を機能者が失わたも、別地か<br>学校庭等へ対する信機をがららこままっていることが悪いるのでは、<br>たださながら、100mmを中状位の児童主社。心など感じました。今後とら連携ささせてい<br>たださながら、100mmを対象では、<br>188月間の組織力の強化とテームワークの向上を膨じた。やりっぱないで終わらない。一人<br>ひと比を大事による接手を大きいからというというというというというというというというというというとい<br>・一人ひとりの児童を大切にする形象や学塾がつがら目地にア児童の様子を交出、共有す<br>・微楽員アンケートで、肯定的評価をしている機構の割合が日機能を上聞っておることは<br>都変き者が、無異の面分足をがあった。<br>光度を含まり、発見の落足皮が高いと、児童にも好影響が出てくる。素晴らしい学校経営を<br>されておられる。   |  |